

今春で創部20年目に突入したソフトボール女子日本リーグ2部の平林金属(岡山市)。節目に合わせ、県花の「桃」にちなんで「平林金属 Peach Blossoms (ピーチブロッサムズ)」に改称したチームは、日本一の経験を持つ新人3人を迎え入れ、9月に始まるリーグで悲願の1部昇格に挑む。

5月中旬、岡山市のHIRAKINライズ球場。ピンク色に一新したユニホームに袖を通したルーキーたちは、やる気に満ちていた。

175センチ、88キロの体格が目を引くのは淑徳大出の右腕・植村華(23)。緩急巧みな投球が持ち味で、木更津総合高(千葉)3年時はインターハイ優勝に貢献した。「リーグで足跡を残せる投手になるために、まず

# 1部昇格へ3新人加入

は任された仕事を全部したい」。投手出身の横畠監督の下、長いリーチを生かし球速アップに取り組んでいる。

昨年全日本大学選手権3位の環太平洋大から加入した岡田望(22)は

「打線の起爆剤に」と指揮官が期待する左の強打者。162センチ、72キロのつちりとした体で逆方向にも長打を放つ。倉敷市出身で倉敷中央高時代は県選抜メンバーとして和歌山国体で優勝も経験し

## ソフト女子・平林金属



平林金属に今春加入した(左から)岡田望、柏坂恵美、植村華

## 改称、ユニホームも一新

た。「応援してくれた人たちに恩返しする」と抱負を語る。

「グラウンドで年齢は関係ない。たくさんのことを学び、いつかチームの要になる」と負けん気をのぞかせるのはチーム唯一の10代で強肩捕手の柏坂恵美(18)159センチ、66キロ。2018年夏から3季連続で全国制覇を果たした名門・兵庫大須磨ノ浦高で腕を磨き、昨夏のインターハイは指名打者としてパンチ力のある打撃も披露した。

平林金属は昨季のリーグで14チーム中7位。新型コロナウイルスの影響で当初予定から開幕が5カ月延びる中、一成長するための時間と捉え、新人らしく生き生きと練習したい(岡田)とフレッシュな風を吹き込みたい(田井香菜子)。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。